

## 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク シンポジウム

京都舞鶴港港湾管理者挨拶：京都府副知事 太田 昇



ご紹介いただきました京都府の副知事の太田でございます。

今日は、お足元の悪い中でございますけれども、この京都府舞鶴の地に、北は北海道から南は九州までの道県、そしてまた市町の皆様方を初め関係者の皆様がこのように多くおいでいただきまして、心から御礼申し上げますとともに歓迎をさせていただきます。また、このにぎわいネットワーク交流の事業が、平成7年からずっと続けられて、活発に議論をし、また交流をされていることに敬意を表したいというふうに思います。地元のことにつきましては、先ほど舞鶴市長さんが申しあげましたので省かせていただきますけれども、きょうのこのシンポジウム、「日本海沿岸地域の“きずな”と“にぎわい”が日本を救う」と、本当に今、時宜にかなったテーマだと思っております。

舞鶴市にあります海上自衛隊、そして海上保安庁の生々しい活動紹介もあると思っておりますけれども、この不幸な大震災でございますが、大きな教訓が幾つもあると思っております。その一つの教訓が、長期的に、やはりもう一度バランスのとれた国土構造をつくらなければならないということだと思っております。今回のテーマの「日本海沿岸地域の“きずな”と“にぎわい”が日本を救う」というのは、多分そういうことを意図してつくられたと思っております。

もう一つは、やはり港湾の関係でございますけれども、港湾の太平洋側とのリダンダンシー機能、それをもっと位置づけなければならないと思っております。

それから、もう一つの大きな日本海側の課題である可能性として、これまで以上に沿岸諸国、先ほど舞鶴市長さんの方からもありましたけれども、その経済発展がめまぐるしい地域との交流がますます活発になりますし、また、活発にしなければならないと考えております。

まさに日本海、黒海まで言ってもいいと思いますが、それがヨーロッパで言えば地中海のような、そういう存在になることができるし、またしなければならないというふうに思っております。日本のこの日本海側の沿岸都市の皆様方が集まってこういう交流をすることが、その大きな力になると思っておりますし、今、国土交通省の方で日本海側の拠点港の指定整備を図っていこうというのが、まさにその時代に合ったものと思っております。舞鶴港もほかの港と連携もしながら、国際コンテナ、あるいは国際フェリー、旅客、そういうところの機能を強化する、そしてまた施設も整備していこうと思っております。

また、道路の関係で申しますと、実はまだ名神高速道路の京都のところからここまでつながっておりません。しかし26年度には京都の名神高速道路に大山崎がございますけれども、ここまでつながってまいりますし、そして中国自動車縦貫道の吉川からずっと舞鶴若狭自動車道がございますけれども、今、小浜まで行っております。それが敦賀につながります。そうすると北陸道から、そして名神ということで、関西と中京と、その大産業ができるということになります。そういうような発展をさせながら、さらに、やはり道路の日本海国土軸が必要ではないかということで、それについても関係者と頑張っていきたいと思っております。

結びに当たりまして、このシンポジウムから本当にいい成果が生まれることを期待しておりますし、そして、実はこの10月に国民文化祭が京都で開かれまして、この舞鶴におきましても、多分日本で一番赤れんがの倉庫群が多いところだと思いますが、その倉庫群を開放して赤れんがアートフェスティバルが開かれて、港町の舞鶴の風情が感じられるというふうに思っておりますので、もう一度舞鶴にお越しいただきたいというふうに思っております。

結びに当たりまして、皆様方のご健勝、ご多幸、ご活躍をお祈りいたしまして、本日のお祝いのあいさつとさせていただきます。